

## 2002年1月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

北半球500 hPa 高度では、極渦はバフィン島付近と西・中央シベリアにあり、極渦周辺は負偏差、極付近は正偏差となった。大西洋からヨーロッパにかけては南北蛇行が大きく、大西洋はトラフ場、ヨーロッパはリッジ場となった。平年ではオホーツク海付近に位置する低気圧は見られず、オホーツク海付近から太平洋北部にかけては正偏差が分布した。偏西風は太平洋で平年よりも弱く、大西洋では平年より強かった。西アジア付近のジェットはやや北偏し、日本付近は平年に比べてやや弱かった。ヨーロッパ北部からバイカル湖付近にかけての偏西風は平年に比べて強かった。

対流活動は、インド洋とニューギニアの東から日付変更線付近にかけて平年より活発だった。一方、インドネシアからオーストラリア北部にかけては不活発であった。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図を見ると、大規模発散域の中心は対流活動の活発域に対応して、インド洋と太平洋西部に分かれて位置した。

SOI (南方振動指数) は+0.2となった。

### 世界の天候

#### ① 日本から中央シベリア南部の多雨

上旬に沿海州で暴風雪による死者や停電などの被害が、中旬にはモンゴル南西部でも暴風雪により、87万頭の家畜が死亡したとの被害が報じられた。

#### ② 中国東部から中央アジアの高温

月平均気温はシベリア南部から東アジアの広い範囲で高く、異常高温の地点も多かった。

#### ③ マレーシアからインドネシアの高温

#### ④ スカンジナビア半島の多雨

#### ⑤ スペインからアフリカ北西岸の高温

月平均気温はアフリカ西岸、サウジアラビア南部からイランで高く、アフリカ西岸では異常高温の地点もあった。

#### ⑥ 北米中部から東部の少雨

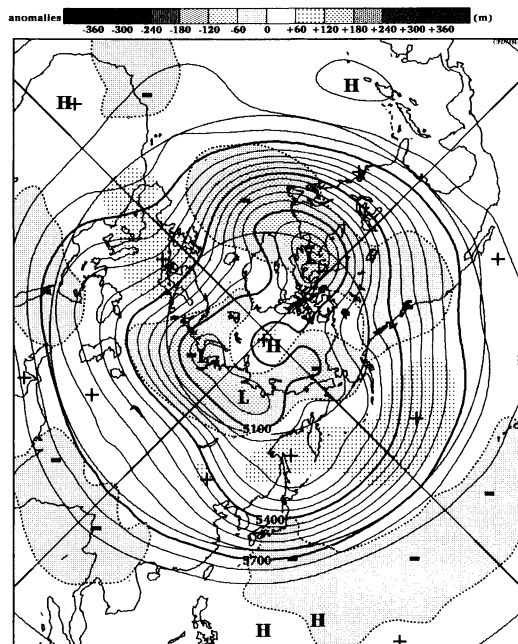
米国東部やカナダでは少雨が続き、水不足や農作物への影響が懸念されていると報じられた。

#### ⑦ カリブ海諸国南部の高温

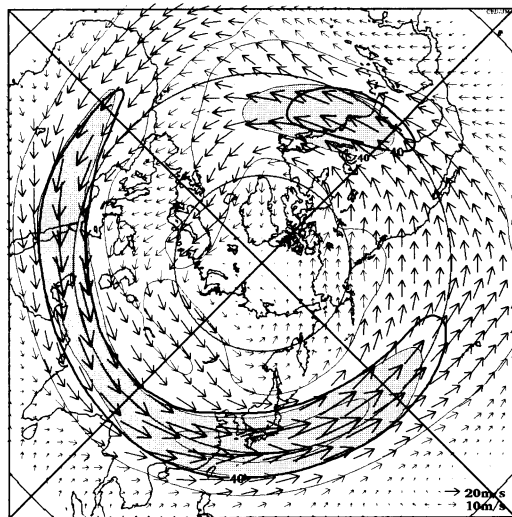
#### ⑧ ブラジル北東部の多雨

#### ⑨ メラネシアの高温

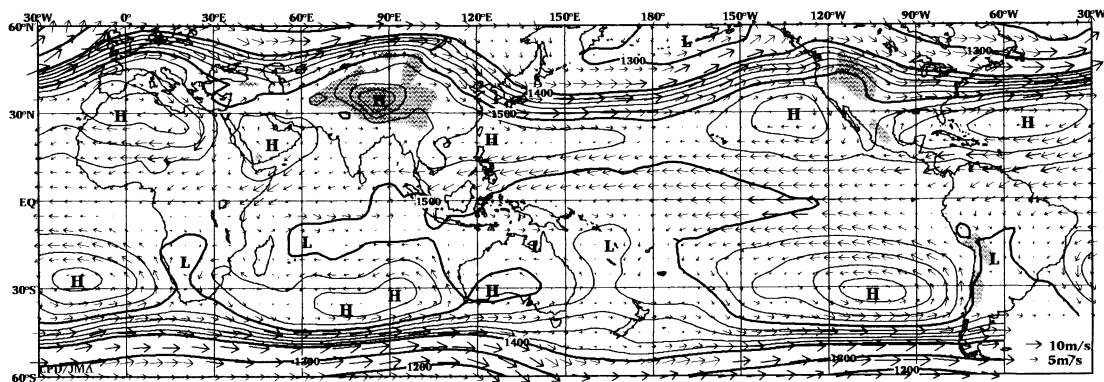
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 古林慎哉)



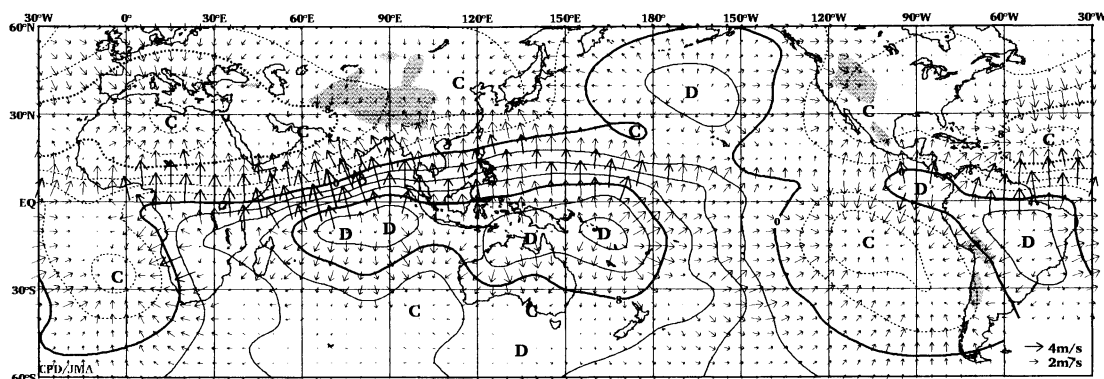
2002年1月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差  
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



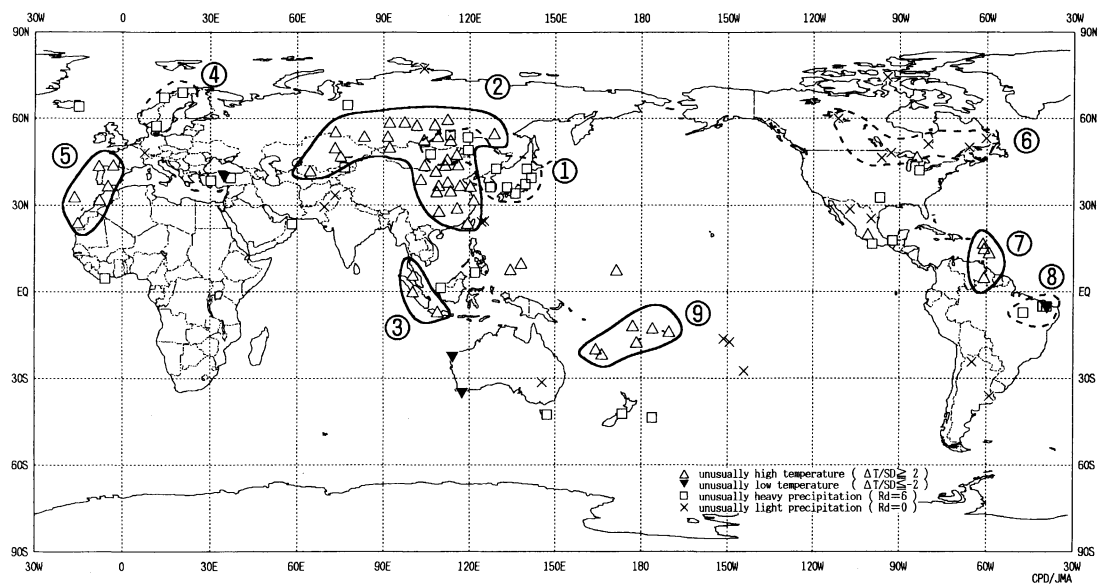
2002年1月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル  
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は40 m/s以上, 太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2002年1月の月平均850 hPa高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



2002年1月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2002年1月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の  
 番号は本文中の番号と対応している.